
相談なんて出来ません

ネッシー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

相談なんて出来ません

【Nコード】

N7474E

【作者名】

ネッシー

【あらすじ】

テニプリの氷帝のダブルス1です。今の関係を壊したく無くて、告白しないと決めた長太郎のお話です。

（前書き）

めちゃくちゃ純粹で見てる方が恥ずかしくなるくらい、ウブです。
けど、男の子が男の子に恋をするお話しなので苦手な人は見ないで
下さい。

…俺は今、人には言えない恋をしているんです……。

この俺、鳳長太郎は、かの有名な氷帝学園のテニス部に所属していて、それに一応レギュラーで全国大会でもダブルスで良い結果を残している。

俺の恋する相手と言うのがダブルスのパートナーの穴戸亮さん
まあ 男だ 。

最初に見たときは
「カッコいいひとだな」とはおもっていたけどそんなには気にしていなかった。

それが今では、顔を見ただけでドキドキして、手が触れただけで平静を保つのが困難になる。

もちろん俺にはそっちの気はなかったし、
俺がそんな気持ちになるのは穴戸さんだけだ

最初は、ドキドキしていたって、それが恋だなんて思いもしなかった、けど、一緒に居てやっと分かった

「ああ、

この人が好きなんだ」って

もちろん言うつもりなんてさらさら無い

全国大会が終わって、穴戸さんは部活にたまに顔を出すぐらいだけど、メールしたり、電話したりと、いわゆるお友達のお付き合いは続いている。

俺は友達の関係で満足しなければならない。これ以上を望めばこの関係まで崩れてしまう

絶対にそれだけは避けなければならない。

だから俺はこの気持ちを心の奥深くにしまって、無理かもしれないけど、出来るだけ忘れる努力をしようと思う。

今日は穴戸さんと一緒に帰る約束をしている、さっきメールが来たから下駄箱のところで待っているはずだ。

俺は跡部さんの後を継いで部長をやっているので、戸締まりや報告などで、もう7時は回っている。

穴戸さんがこんな時間まで時間を潰して俺を待ってくれていることや、もうすぐ会えるってことで、俺の顔はかなりだらしく緩んでいるだろう。

穴戸さんを見つけて大声で叫ぶ

「穴戸さん！！」

誰も居ない学校に大きく響く

「うせるえ…それに、なに一人でニヤニヤしてんだよ気持ち悪いー
激ダサ」

穴戸さんはからかう口調で言ってくる、
どうしよ、そんなやばい顔してたか…

軽くしょんぼりしていると、

頭にポンと手のひらの感触

「ほら、一緒に帰るんだろ？」

…俺は今、最高に幸せな顔をしているだろう。

《穴戸 side》

俺には好きな奴が居る、あまり人には言えないんだが、年下で、ダブルスのパートナーで、辛いときに一緒に居てくれた大切な奴
まあ 男だ。

今は長太郎の部活が終わるのをメール送って下駄箱で待っている。
慣れない図書室で時間を潰すなんてアイツの為じゃ無かったら絶対にしないだろう

実は俺は、長太郎は俺のことが好きだと言うことを知っている、
アイツはバカだから気付いて無いと思っていているらしいが…。
目が合っただけで、頬を真っ赤に染めて逸らしたり、手が触れただけでビククリするほどオロオロし始めたら、誰だって気付くだろう？
それを気持ち悪いとは思わなかったし、むしろ嬉しいと感じた、
これは友達以上の感覚で好きなんだなあ、と違和感無く思った…。

なんで両思いなのに告白しないのだった？
そりゃ年上のプライドもあるし、このままでも充分幸せだからな

長太郎が勇気を出して言うてくるまで、何年でも待とうと思う。
てか、いい加減気づけよ、俺は気が短いんだお前以外は絶対に待
たないんだって

どうせ、今の関係を壊したく無いとか思ってたんだろうな
アイツ、ヘタレだからなあ…ククッ…

あ、長太郎だ

すげえニヤニヤしてんな、あれで外出たら捕まるぞ。あれは猥せ
つ物だな（笑）

長太郎が俺に気付き満面の笑みを見せる

「穴戸さーん！」

誰もいない学校に長太郎の大声が響く

「うるせえ…それに、なに一人でニヤニヤしてんだよ気持ち悪いー
激ダサ」

ほんとうは何でニヤニヤしてたのなんて知っている

少しへこんでる長太郎の頭にポンと手を置いて言うてやる

「ほら、一緒に帰るんだろ？」

…さあ、お前の幸せそうな笑顔を見せてくれ

（後書き）

初めて書いたのでヘタクソですみませんm（――）m
これは練習のつもりなので、感想、アドバイスなどを頂けたら感激
です

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7474e/>

相談なんて出来ません

2010年10月14日21時37分発行